

令和6年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	(1) 学力向上進学重点校、SSH 指定校にふさわしい生徒の学習希望や進学希望に応える教育課程の推進 (2) 学習効果を高める ICT を活用した教育の開発と提供 (3) SSH教育の推進による、科学的リテラシーを備えた新たな価値を創造する人材の育成 (4) グローバル人材の育成	① 学力向上進学重点校、SSH 指定校にふさわしい教育課程の実践 ② ICT を利活用した効果的な教育方法の組織的な開発研究と実践及び効果の検証 ③ 探究活動の研究開発や成果発表機会拡大及びコンテスト等への参加、国内外の教育機関との教育交流の持続可能なシステムの構築と推進 ④ 多様な文化や価値観を尊重する態度を育成するとともに、姉妹校交流等を活用し、国際性を培う。	① 選択科目の設定等具体的な実践を通じた現行教育課程の検証と授業の質を確保する。 ② 互見授業や教員間の情報共有等により、既存と新規導入 ICT 機器の活用の拡充を図る。 ③ SSH 研究室の増設とイノベーションへの取組推進。「SSH メテボプロジェクト部」による外部連携とコンテスト、学会出場を推進する。 ④ 姉妹校交流及び科学研究による国際性の向上を目指した SSH 海外研修・共同研究を実施する。	① 時間割、授業展開の方法等、今後に向けた改善を進められたか。実時間数の調整が進んだか。 ② ICT 利活用に関する教員アンケートの結果等。 ③ コンテストや学会に出場する生徒数が増加し、探究活動の成果向上が見られたか。先進的な取組を通じて理数系分野への進路実現を果たすことができたか。 ④ 外国語の活用能力が高まったか。国際的な分野への進路実現を果たすことができたか。
2	生徒指導・支援	(1) 自他を尊重し、多様性を認め社会の形成に関わるリーダー人材の育成 (2) 校訓[自重自恃]の精神の涵養 (3) 行事、部活動と学習面の高度な両立を目指す生徒のバランスの取れた学校生活の支援体制の充実と関係機関との連携	① 自他を敬愛し、礼儀を重んじ、自由と責任を弁えたリーダーとしての行動態度を育てる。 ② 学力向上進学重点校における学びと行事や部活動等を両立し得る自律力の育成を図る。 ③ 校内の教育支援体制強化、支援力向上と共に、外部機関と連携活用する。	① 行事や学校生活全般を通じ、集団の当事者意識を高めるとともに、社会に貢献するリーダーとしての資質を育む。 ② 伝統を継承するとともに多様化する価値・創造性を尊重した生徒会活動の計画を立て、主体的且つ、他者と協働して課題解決できるよう指導する。 ③ 安心して健康的な学校生活が実現できるよう、教育相談機能等を活用した支援体制の充実。支援力を高めるための職員研修を実施する。	① 社会を形成する当事者意識を持ちリーダーとして責任ある行動を取り、主体的に地域と協働できたか。 ② 伝統の継承と時代に応じた新たな企画を検討し、主体的且つ計画通り円滑な生徒会活動が行えたか。また、生徒活動内容満足度が80%以上か。 ③ 校内関係者や外部機関と連携を取り、組織的に問題に取り組み、未然防止・早期対応できたか。また、年6回程度の生徒支援研修の実施できたか。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
3	進路指導・支援	<p>(1) 学力向上進学重点校としての難関大学、スーパーグローバル大学等への進学に向けた組織的な進路支援体制の研究と構築及びその推進</p> <p>(2) VUCA の時代を生きる能力の獲得に向け、高い次元での自己実現を目指す生徒の学びに向かう力・キャリア能力を高めるがイタンスの充実と学習環境の整備</p>	<p>① 正確でタイムリーな情報提供及び3年間の成長過程に合わせた多様なキャリア教育の構築と実践</p> <p>① 教員一人ひとりの進路指導力を高める研修等の充実及び持続可能な校内体制の構築と指導実践の引継ぎ</p> <p>② 科学的、論理的な思考力、グローバルな視点の獲得への観点・取組の強化</p> <p>② セルフケア力やイタンス力を高める機会の提供や環境の充実</p>	<p>① 模試や進路希望調査の結果、最新の入試情報の分析・研究を周知することで組織的な進路指導・支援体制を構築する。</p> <p>② キャリア行事等を通して、社会で求められる人間像を示しながら、生徒の学際的な興味・関心を喚起する。</p> <p>② インターンシップ等の参加を促し、生徒のキャリアデザインを支援する。</p> <p>② SSR や自習スペースなどの学習環境を整備する。</p> <p>② 生徒のニーズを把握し、夏季休業中により良い講座を設定する。</p>	<p>① 各模試の結果分析や進路希望調査の結果分析を生徒及び全職員に周知できたか。</p> <p>① 最新の入試情報を提供し、担任や学年の職員の進路指導を支援できたか。</p> <p>② 生徒の視野を広げるキャリア行事を実施できたか。また、生徒の知的好奇心を引き出す幅広い知見を紹介できたか。</p> <p>② 生徒が個のニーズに応じたインターンシップに参加できたか。</p> <p>② SSR、自習スペースの学習環境は整っているか。</p> <p>② 夏期講習に関する生徒アンケートの結果等。</p>
4	地域等との協働	<p>(1) 外部人材の活用やSSHの取組成果等の小中学校等への発信と提供</p> <p>(2) ホームページによる教育活動、教育成果の発信をはじめとする広報活動の充実</p> <p>(3) 本校卒業生をはじめとする外部人材による教育支援ネットワークの拡大及び活用</p>	<p>① 生徒による教育発信や外部機関との連携の場の創出</p> <p>② ホームページの充実と、迅速で適切な情報提供のための体制整備と人材育成</p> <p>③ 地域や同窓会、PTA等の組織と連携した安全教育・防災教育・環境整備等の実践</p> <p>③ 本校卒業生による教育支援組織の創設</p> <p>③ 学校運営協議会の評価の活用</p>	<p>① 理数系分野などの講演、探究活動の質の向上に向けた外部人材の活用と文化祭や学校説明会における研究成果の発表を実施する。</p> <p>② 教育活動等の情報の発信を月2回以上実施。また、職員による情報発信環境を整備する。</p> <p>③ 地域の防災関連団体や消防署と協力し、防災訓練や環境整備を実施する。</p> <p>③ SSHの組織体制「TAMA SSH Graduate」による卒業生を活用した探究活動の支援や講演を実施する。</p>	<p>① 専門領域に対する関心を高めることができたか。研究の高度化を進めることができたか。次世代における探究活動への関心は高まったか。</p> <p>② 月2回以上の情報発信更新を行うことができたか。担当職員以外も情報の発信・更新に関わることができたか。</p> <p>③ 地域と協働して防災訓練を実施できたか。また、地域の方に学校防災環境を説明できたか。</p> <p>③ 「Meraki」における研究の高度化を進められたか。科学的研究領域に対して興味が高まったか。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>(1) 企画会議の機能の拡大による職員の経営参画意識の向上と人材育成</p> <p>(2) 教員が教育に係る時間を確保し、創造的な思考を生み出す働き方改革の推進</p> <p>(3) 計画的・効率的で適正な予算執行と学校環境の整備</p> <p>(4) 事故不祥事防止の徹底</p>	<p>① 企画会議と各組織・職員との双方向情報共有を深め、全職員の学校経営参画意識を高める。</p> <p>② ICTの利活用をはじめ業務の効率化・スリム化・外部移管可能業務の移管を図り、「働き方改革」を推進する。</p> <p>③ 教育活動に資する環境整備及び安全確保を図る。</p> <p>④ 事故防止会議や研修を計画的効果的に行い、意識の徹底を図る。</p>	<p>① グループ会議等を通じ企画会議と各職員間の情報共有を深めるとともに、意見の集約・反映を推進する。</p> <p>② 業務アシスタントを有効活用し、教員の教育活動の時間を確保していく。</p> <p>② デジタル採点の活用を継続し、採点業務の効率化を図る。</p> <p>③ 老朽化に伴う備品を更新し、教育活動の安全を確保する。</p> <p>④ 定期的な職員研修とともに不祥事防止に向けた注意喚起を徹底する。</p>	<p>① 職員間向情報共有と職員からの意見を反映することができたか。</p> <p>② 業務アシスタントへの依頼やフローの見直し、デジタル化による業務効率化が実施されたか。</p> <p>② 教員アンケートによる活用実績の結果等。</p> <p>③ 教育活動において老朽化等により安全に使用できない備品等を速やかに更新できたか。</p> <p>④ 風通しの良い職場づくりを心がけ、教育公務員としての意識向上を図れたか。</p>